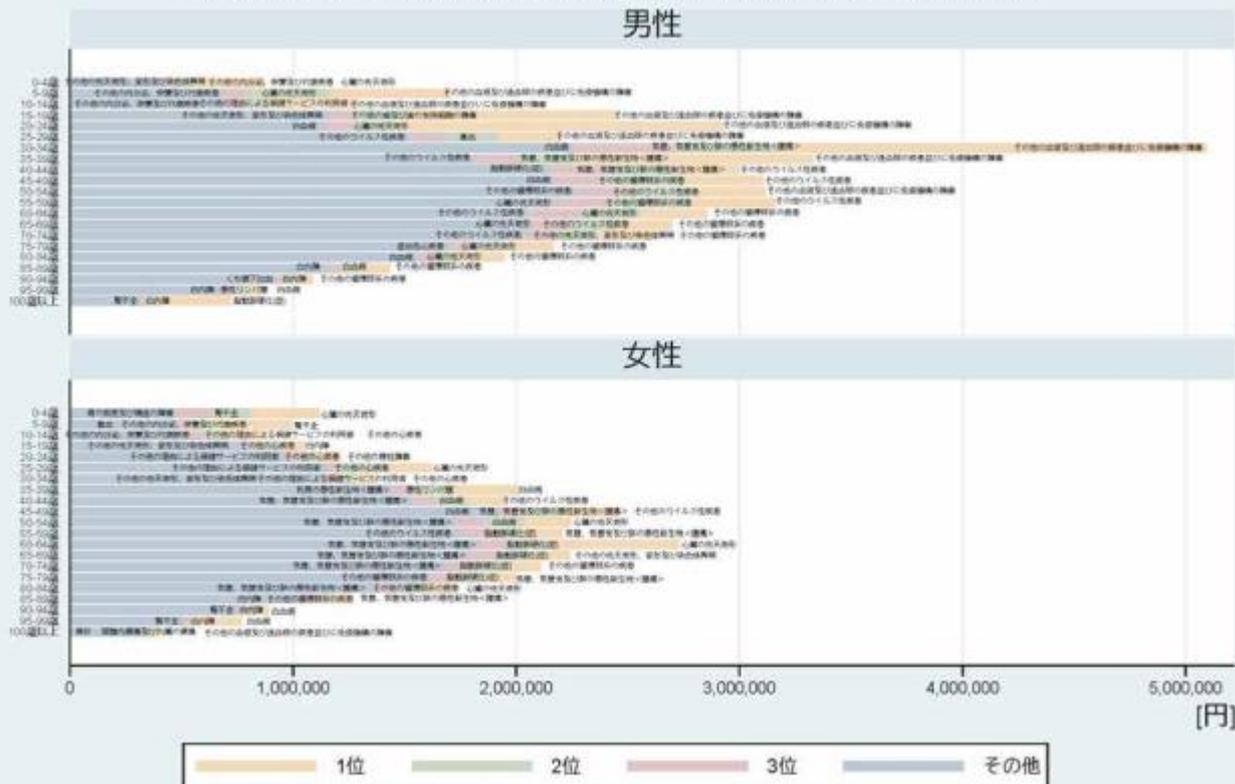


1-ウ. 2019年度1日当たり医療費ICD10中分類別上位3位【性別・年齢階層別】



1日当たり医療費＝(主病種のICD10中分類別医療費/当該レセプトの診療実日数) (*調剤レセプトは除く)

- (1)
- (2)
- (3)
- (4)
- (5)
- (6)
- (7)
- (8)
- (9)
- (10)
- (11)
- (12)
- (13)
- (14)
- (15)

(2) 千葉県糖尿病性腎症重症化予防プログラム対象者数の集計

1. 対象データ: ①健康スコアリングレポート、②KDB(レセプトデータ)、③NDB(レセプトデータ)
2. 対象期間: ①令和元年度、②平成27年度から令和元年度、③平成30年度
3. 対象者: <基準1>および<基準2>に該当する被保険者
 - <基準1>
 - ア 空腹時血糖値 126mg/dl 以上又は HbA1c6.5%以上の者
 - イ アに該当する者のうち、尿蛋白(±)以上、または、血清クレアチニン検査で eGFR45ml/分/1.73 m²以上 eGFR60ml/分/1.73 m²未満(70歳以上は eGFR50ml/分/1.73 m²未満)の条件に該当する者
 - ウ アに該当する者のうち、尿蛋白(+)以上、または、血清クレアチニン検査で eGFR30ml/分/1.73 m²以上 eGFR45ml/分/1.73 m²未満(70歳以上は eGFR50ml/分/1.73 m²未満)の条件に該当する者
 - エ アに該当する者のうち、尿蛋白(+)以上、または、血清クレアチニン検査で eGFR30ml/分/1.73 m²未満(70歳以上は eGFR50ml/分/1.73 m²未満)の条件に該当する者
 - オ イに該当する者のうち、糖尿病の治療ありの者及び治療なしの者
 - カ ウに該当する者のうち、糖尿病の治療ありの者及び治療なしの者
 - キ エに該当する者のうち、糖尿病の治療ありの者及び治療なしの者
 - ク アに該当し、かつ、イ、ウ、エに該当しない者のうち、1年間 eGFR 低下が 5ml/分/1.73 m²以上又は1年間の低下率が 25%以上の条件に該当する者
 - ケ クに該当する者のうち、糖尿病の治療ありの者及び治療なしの者
 - <基準2>
 - ア 平成27年4月以降のレセプトデータで糖尿病の治療歴がある者又は平成28年度から平成30年度までの特定健診にて空腹時血糖値が 126mg/dl(随時血糖値 200mg/dl)以上、もしくは HbA1c6.5 以上の者
 - イ アのうち、最近1年間に特定健診を受診した記録やレセプトデータから糖尿病の診断記録(「糖尿病」「糖尿病治療薬の投薬歴」)がない者
4. 評価指標: <基準1>および<基準2>に該当する被保険者数
5. 分析方法: 各評価指標の計算式は表の通りです。

変数	用いた値・条件式
性別	性別区分の値
市町村	総務省市町村区分コード
二次医療圏	住所
保健所圏域	住所
生年月	生年月_西暦の値を付与
空腹時血糖値	検査値_空腹時血糖値
HbA1c	検査値_hba1c値
尿蛋白	検査値_尿蛋白の値
eGFR	eGFR の値
随時血糖	検査値_随時血糖の値

健診受診者	健診機関コードが空欄以外の場合に”健診受診者”とする (健診受診者にはすべてコードの入力がある)
健診実施年月	健診実施年月日上位6桁
健診実施年度	健診実施年月日を年度変換
健診実施年度の年度年齢	生年月と健診実施年月日から年度年齢を算出
年齢階級	生年月と健診実施年月日から年度年齢階級を算出
糖尿病治療あり	薬効分類 == “396” の場合に”治療あり”
糖尿病治療あり	服薬血糖 == “1” の場合に”治療あり”
糖尿病の治療歴あり	icd_10==“E11” “E12” “E13” “E14” の場合に”治療歴あり”
糖尿病の治療歴あり	薬効分類 == “396” の場合に”治療歴あり”

6. 分析結果：県全体の分析結果については次の図で示した通りです。

7. 考察：

図 2-0 は千葉県を受診者数が減少傾向ですが、70 歳以上が増加傾向であることと、全ての年代で女性の方が男性よりも被保険者数が多い傾向にあることを示しています。

図 2-1 から図 2-4 は、健診結果について高血糖や軽度・中等度・高度・腎機能低下すべての腎症リスクにおいて全圏域・全年齢階級で男性の方が女性よりもリスク保有者が多い傾向にあることを示しています。ただし腎症リスクは「尿蛋白」「eGFR」のいずれかに該当する者と定義しているため、尿蛋白で該当するリスク保有者を評価する等のさらなる解析が必要です。

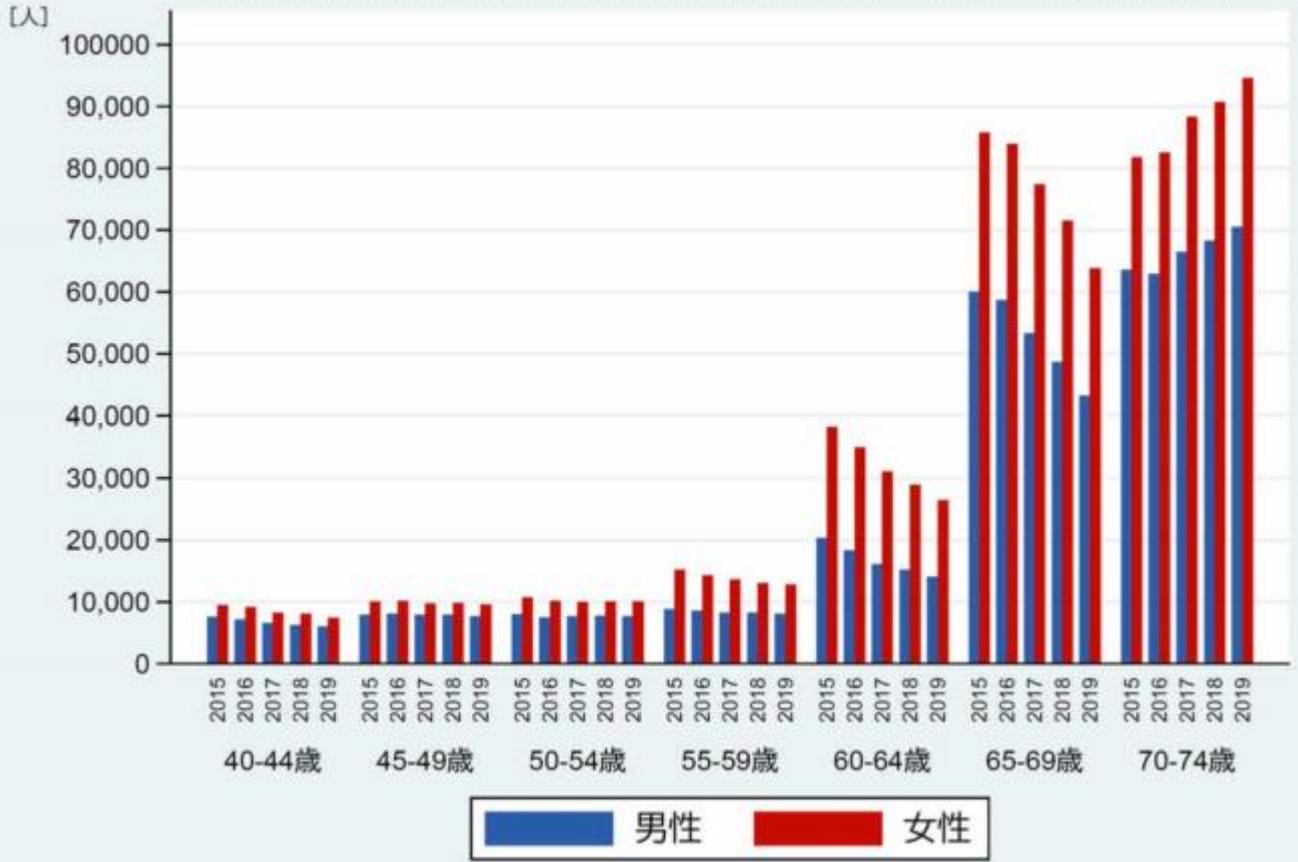
図 2-6 から図 2-9 は健診結果のうち、治療の有無を年齢階級別・性別で年間推移を見ています。

70 歳—74 歳のリスクのある被保険者数の増加に合わせて治療者数も増加しています。しかしながら、中等症・高度腎症リスクがあるにもかかわらず医療機関を受診していない被保険者が増加しています。分析結果は介護サービスのみを利用し、医療機関を受診していない被保険者を含んでおりますので、介護サービスのみ利用者に対する課題について、さらなる解析が必要です。

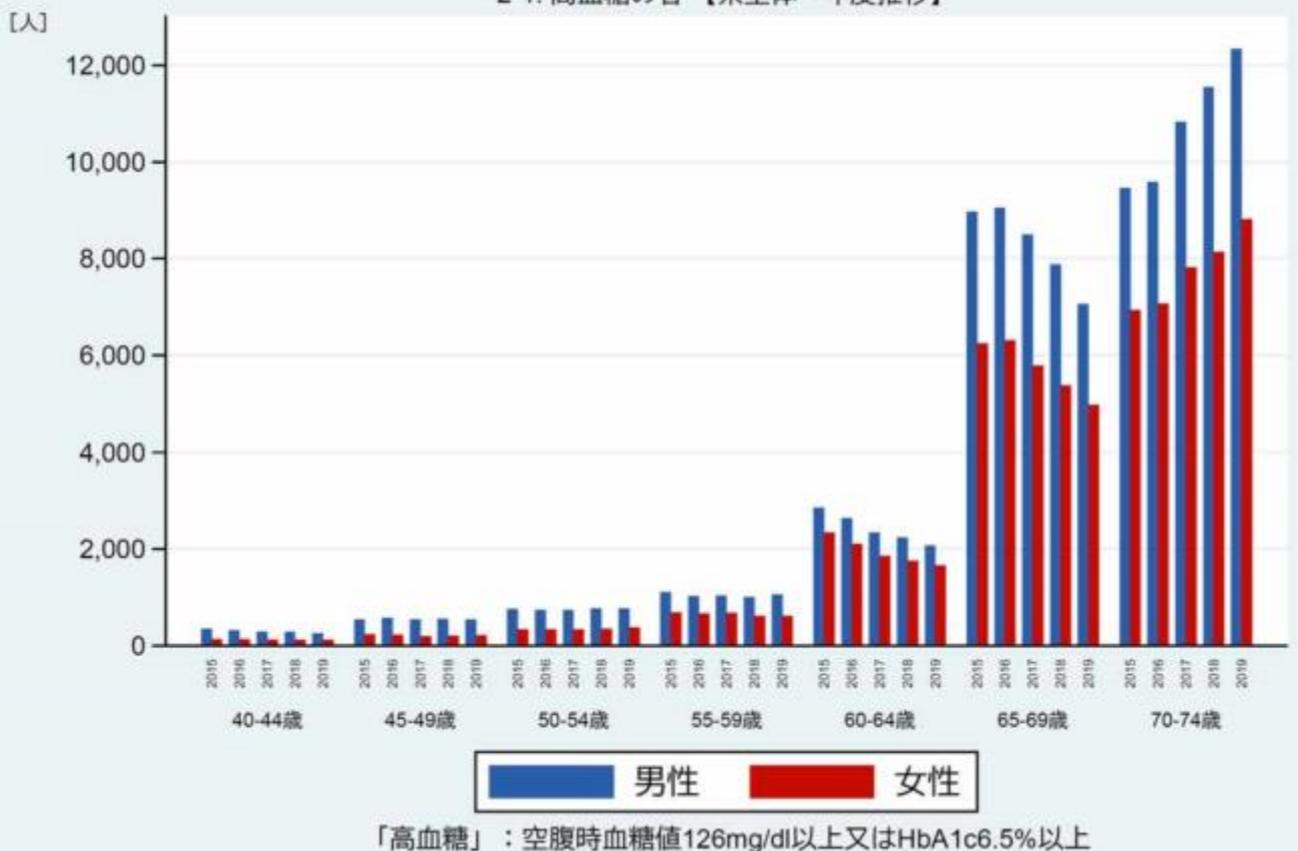
図 2-11 は治療歴や高血糖指摘があるにもかかわらず医療機関の受診のない被保険者数を示しています。すべての圏域において女性の方が高い傾向が見られました。

これらの結果から、高血糖や腎症リスクのある被保険者の現状は、60 歳以上の男性に多い傾向にあることが示唆されました。特に重症化リスクのある 70 歳以上の被保険者数は、高齢化に伴い年々増加しており、さらに性別・年齢・リスクにかかわらず、すべての圏域に多くの未治療者が数多くいることから、年齢やリスクに合わせた重症化予防、未治療者への介入の重要性を示唆しています。

2-0. 特定健診受診者数【県全体年度推移・性別・年齢階級別】

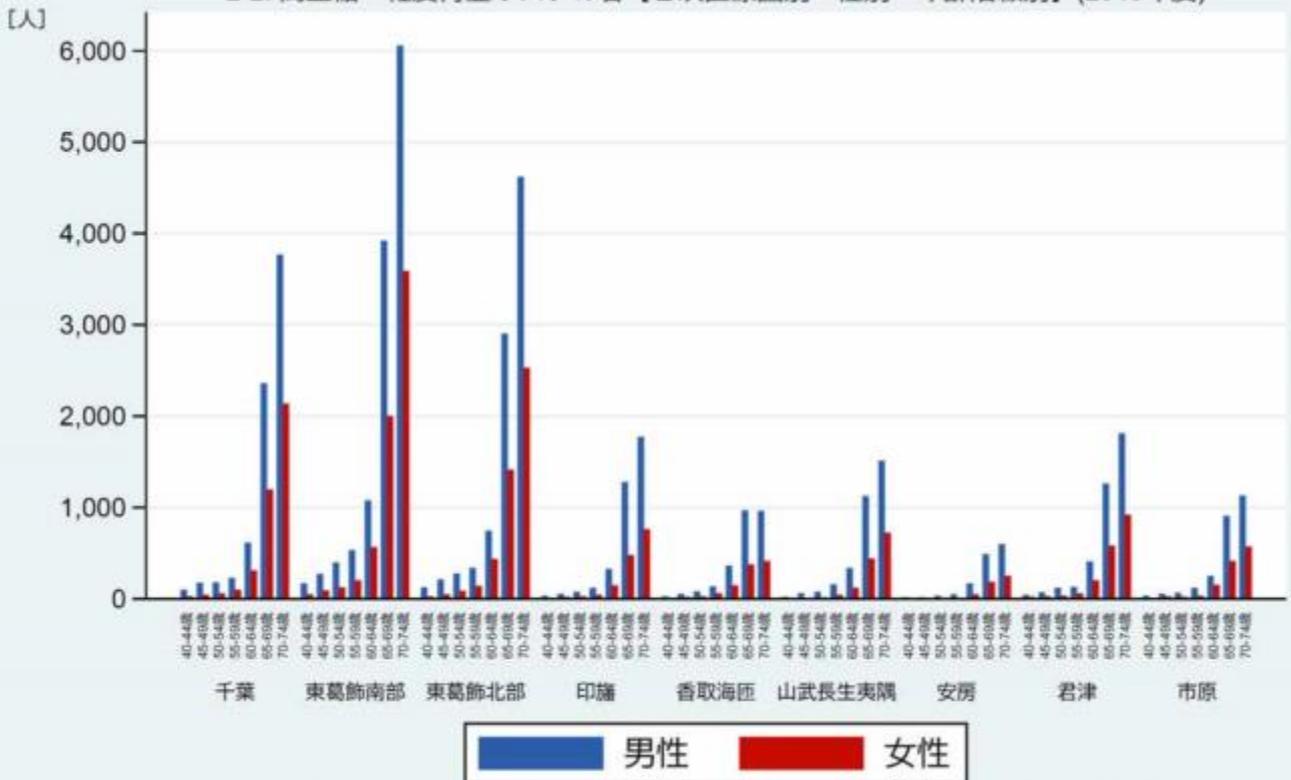


2-1. 高血糖の者【県全体・年度推移】



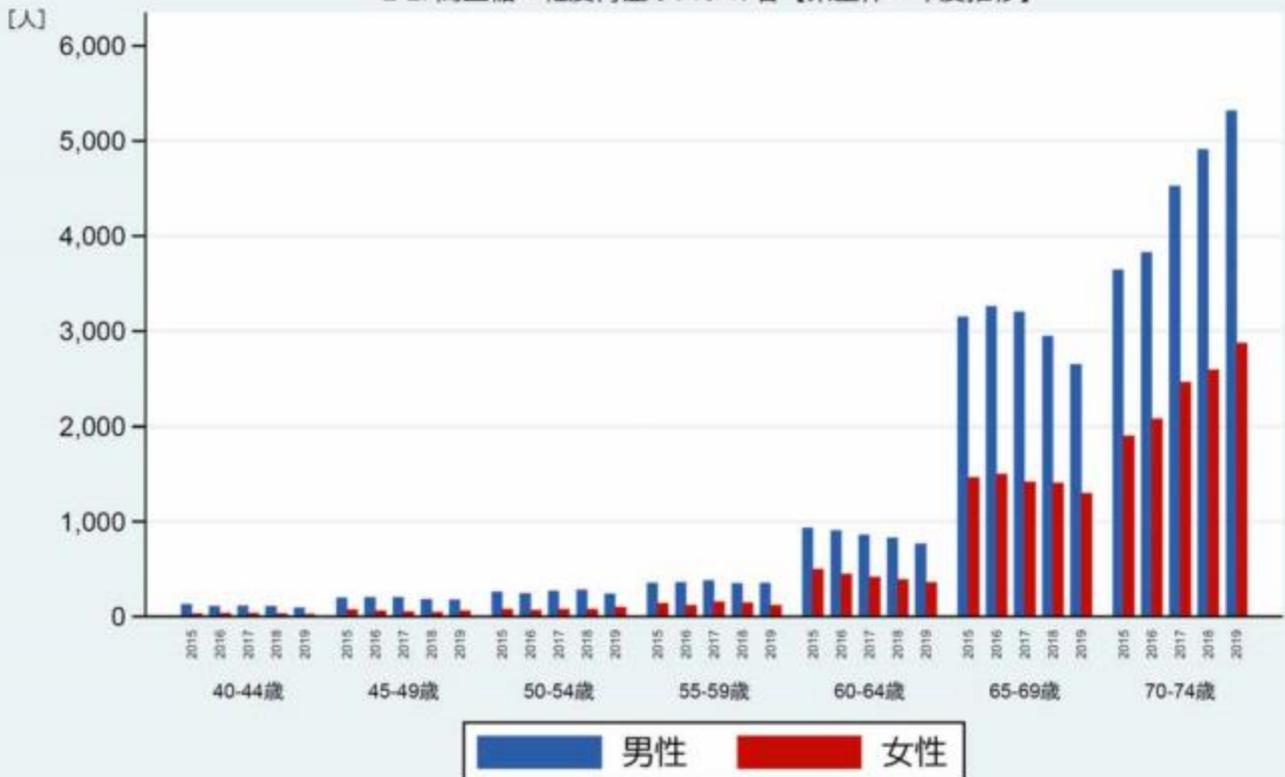
「高血糖」：空腹時血糖値126mg/dl以上又はHbA1c6.5%以上

2-2. 高血糖・軽度腎症リスクの者【2次医療圏別・性別・年齢階級別】(2019年度)



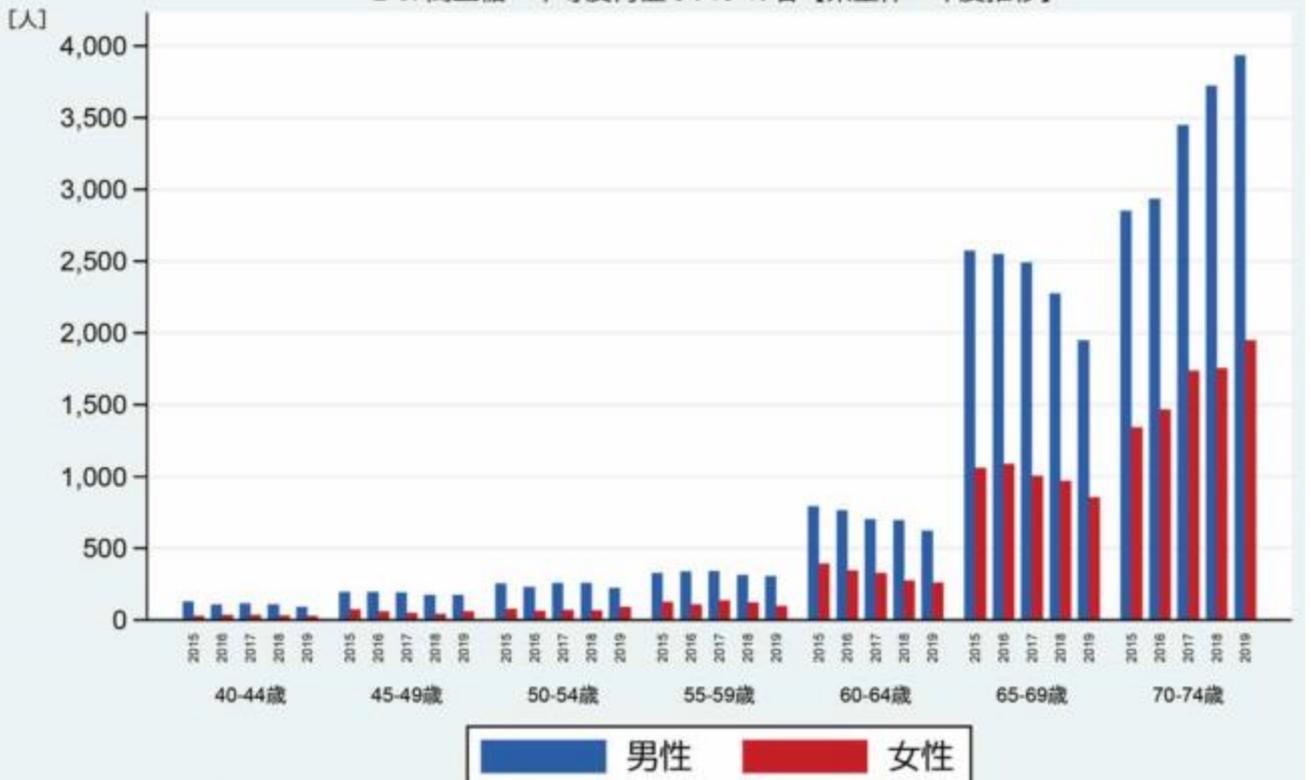
「高血糖・軽度腎症リスク」：「空腹時血糖値126mg/dl以上又はHbA1c6.5%以上」であり、「尿蛋白(±)以上」または「血清クレアチニン検査でeGFR45ml/分/1.73㎡以上eGFR60ml/分/1.73㎡未満(70歳以上はeGFR50ml/分/1.73㎡未満)」

2-2. 高血糖・軽度腎症リスクの者【県全体・年度推移】



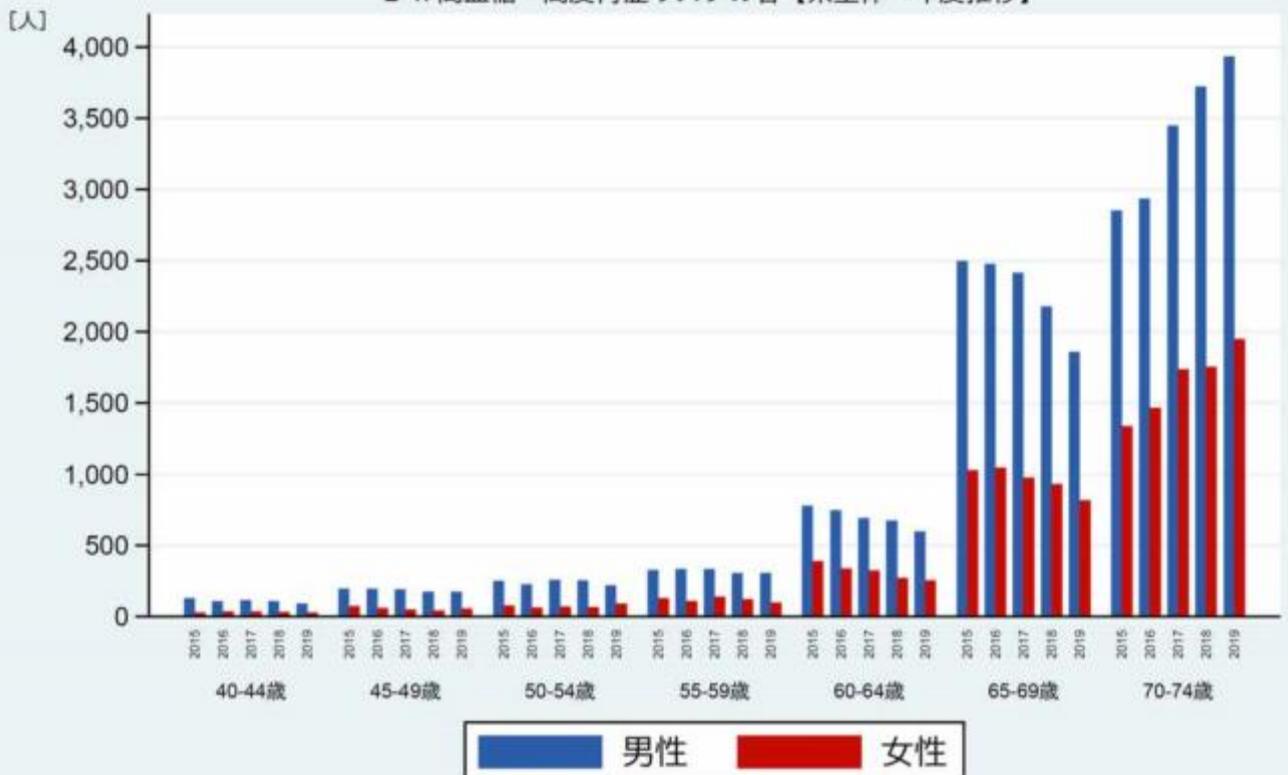
「高血糖・軽度腎症リスク」：「空腹時血糖値126mg/dl以上又はHbA1c6.5%以上」であり、「尿蛋白(±)以上」または「血清クレアチニン検査でeGFR45ml/分/1.73㎡以上eGFR60ml/分/1.73㎡未満(70歳以上はeGFR50ml/分/1.73㎡未満)」

2-3. 高血糖・中等度腎症リスクの者【県全体・年度推移】



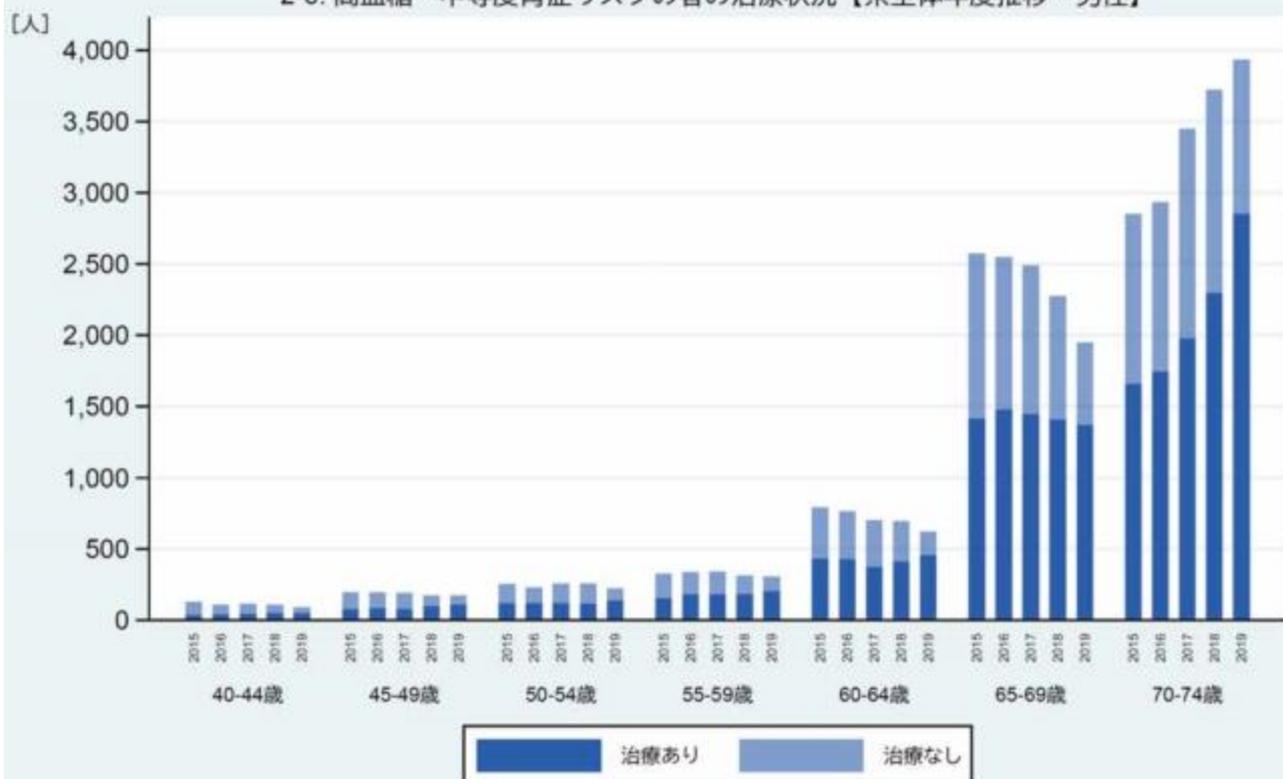
「高血糖・中等度腎症リスク」：「空腹時血糖値126mg/dl以上又はHbA1c6.5%以上」であり、「尿蛋白(±)以上」または「血清クレアチニン検査で eGFR30ml/分/1.73 ml以上 eGFR45ml/分/1.73 ml未満 (70歳以上は eGFR50ml/分/1.73 ml未満)」

2-4. 高血糖・高度腎症リスクの者【県全体・年度推移】



「高血糖・高度腎症リスク」：「空腹時血糖値126mg/dl以上又はHbA1c6.5%以上」であり、「尿蛋白(±)以上」または「血清クレアチニン検査で eGFR30ml/分/1.73 ml未満 (70歳以上は eGFR50ml/分/1.73 ml未満)」

2-6. 高血糖・中等度腎症リスクの者の治療状況【県全体年度推移・男性】



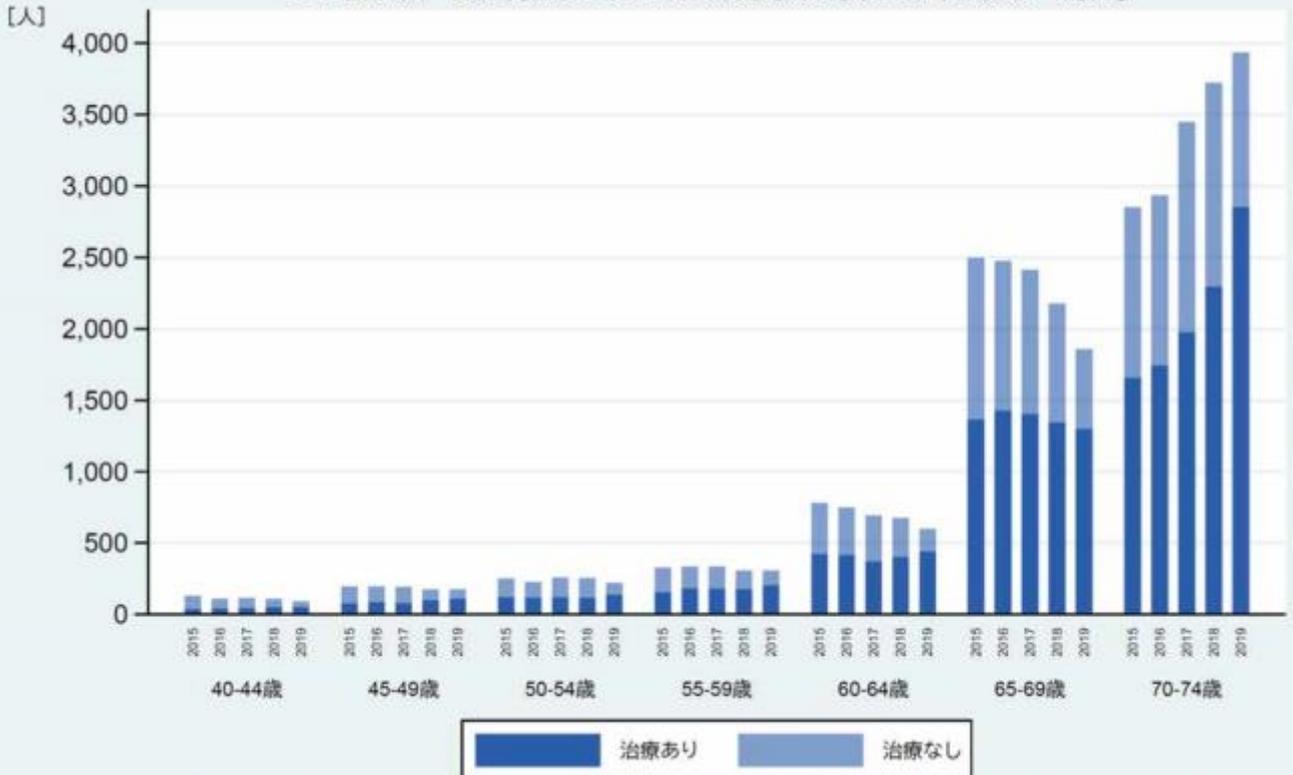
「高血糖・中等度腎症リスク」：「空腹時血糖値126mg/dl以上又はHbA1c6.5%以上」であり、「尿蛋白(±)以上」または「血清クレアチニン検査で eGFR30ml/分/1.73 ml以上 eGFR45ml/分/1.73 ml未満 (70歳以上は eGFR50ml/分/1.73 ml未満)」

2-6. 高血糖・中等度腎症リスクの者の治療状況【県全体年度推移・女性】



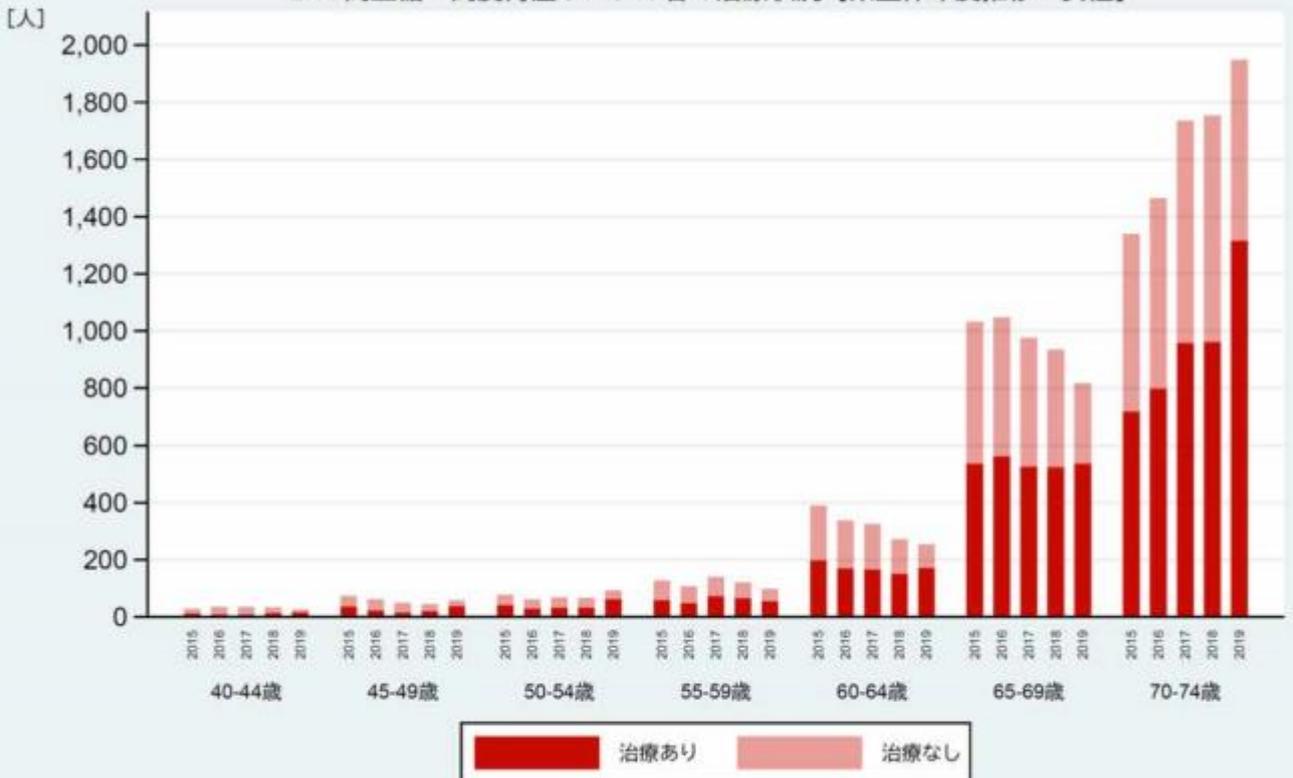
「高血糖・中等度腎症リスク」：「空腹時血糖値126mg/dl以上又はHbA1c6.5%以上」であり、「尿蛋白(±)以上」または「血清クレアチニン検査で eGFR30ml/分/1.73 ml以上 eGFR45ml/分/1.73 ml未満 (70歳以上は eGFR50ml/分/1.73 ml未満)」

2-7. 高血糖・高度腎症リスクの者の治療状況【県全体年度推移・男性】



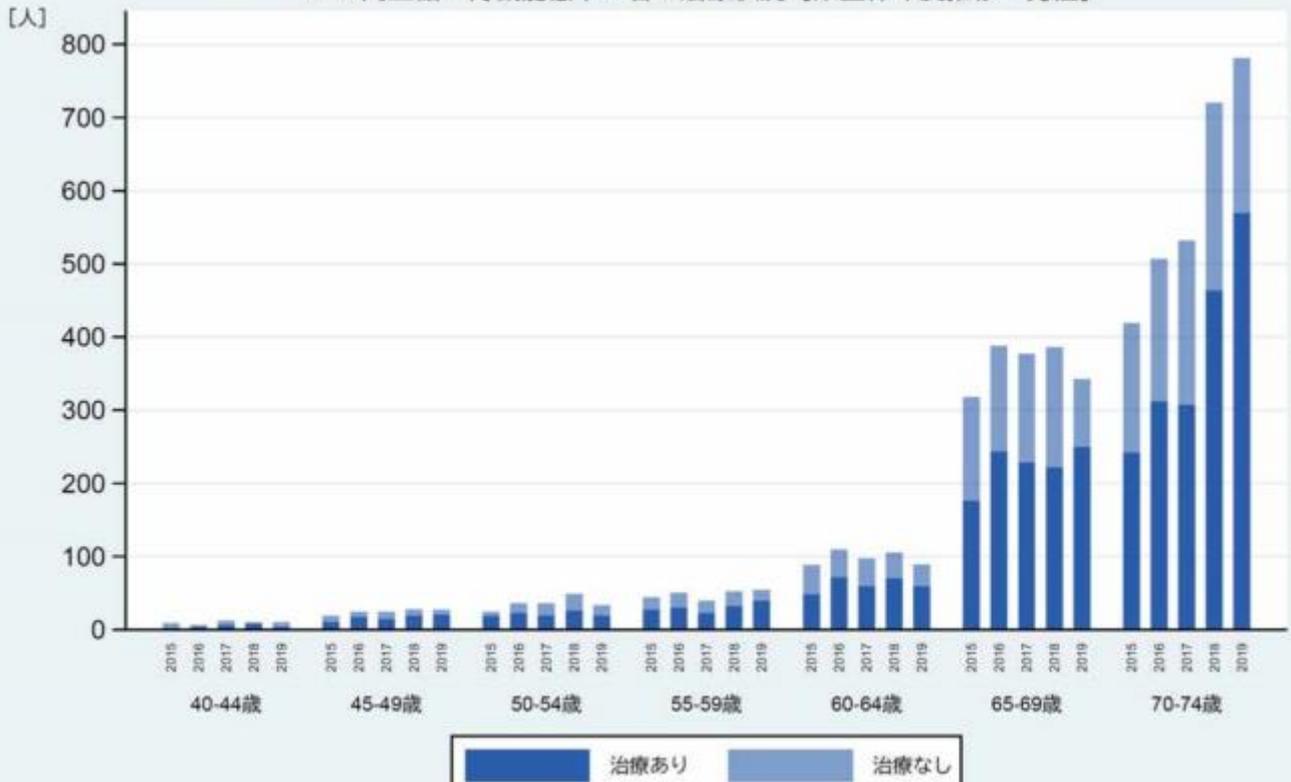
「高血糖・高度腎症リスク」：「空腹時血糖値126mg/dl以上又はHbA1c6.5%以上」であり、「尿蛋白(±)以上」または「血清クレアチニン検査でeGFR30ml/分/1.73㎡未満(70歳以上はeGFR50ml/分/1.73㎡未満)」

2-7. 高血糖・高度腎症リスクの者の治療状況【県全体年度推移・女性】



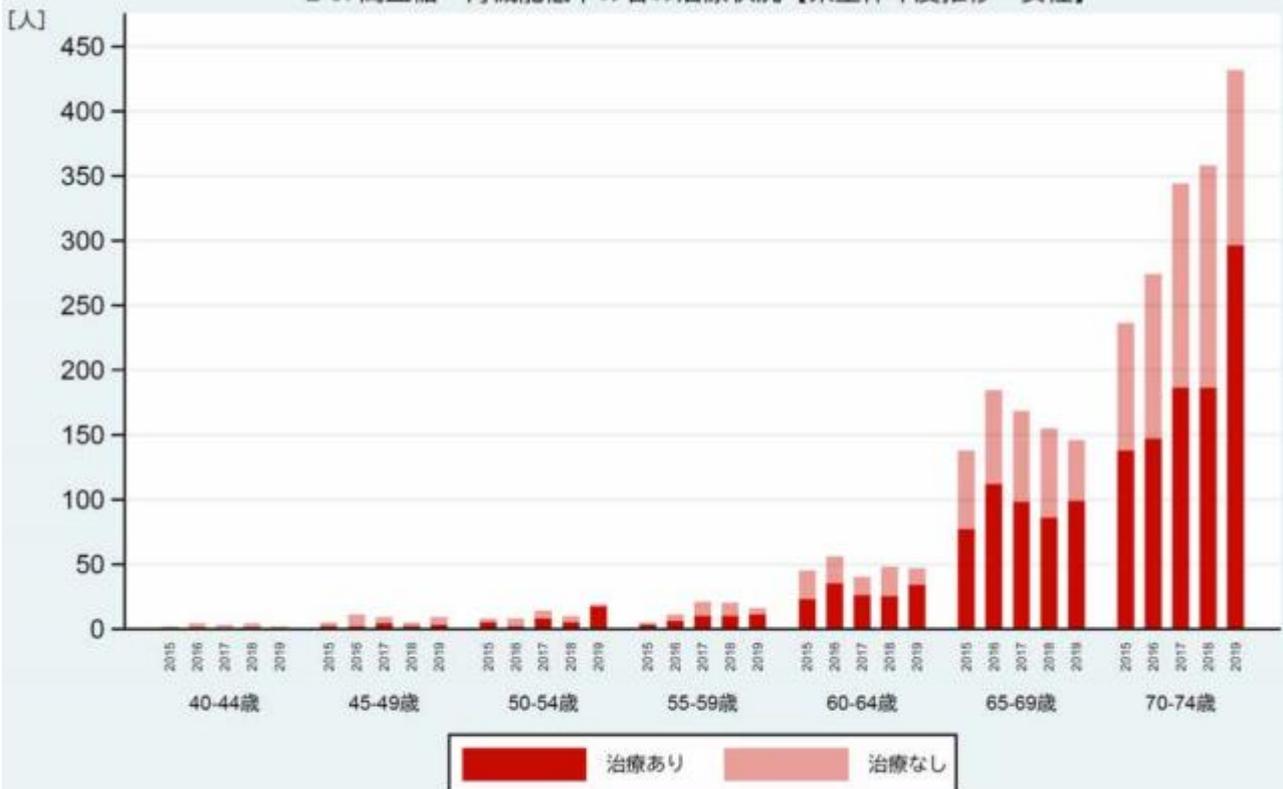
「高血糖・高度腎症リスク」：「空腹時血糖値126mg/dl以上又はHbA1c6.5%以上」であり、「尿蛋白(±)以上」または「血清クレアチニン検査でeGFR30ml/分/1.73㎡未満(70歳以上はeGFR50ml/分/1.73㎡未満)」

2-9. 高血糖・腎機能低下の者の治療状況【県全体年度推移・男性】



「高血糖・腎機能低下」：「空腹時血糖値126mg/dl以上又はHbA1c6.5%以上」であり、「尿蛋白 (±) 以上」または「血清クレアチニン検査でリスク要件にかららない者のうち、eGFRが5ml/分/1.73ml以上低下、または1年間の低下率が25%以上の条件に該当する者」

2-9. 高血糖・腎機能低下の者の治療状況【県全体年度推移・女性】



「高血糖・腎機能低下」：「空腹時血糖値126mg/dl以上又はHbA1c6.5%以上」であり、「尿蛋白 (±) 以上」または「血清クレアチニン検査でリスク要件にかららない者のうち、eGFRが5ml/分/1.73ml以上低下、または1年間の低下率が25%以上の条件に該当する者」